

[平成22年度設置]

計画の区分：大学院の研究科の設置

大妻女子大学大学院 人間文化研究科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 大妻学院
平成23年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ……」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	29
4. 既設大学等の状況	31
5. 教員組織の状況	35
6. 留意事項に対する履行状況等	59
7. その他全般的事項	61

別添

- ・大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
- ・大妻女子大学大学院人間文化研究科FD委員会規程
- ・大妻女子大学及び大妻女子大学短期大学部教員の国内・国外研修規程運用細則

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 大妻学院

(2) 大学名

大妻女子大学大学院

(3) 大学の位置

千代田キャンパス
(本部に同じ) 〒102-8357
東京都千代田区三番町12番地

多摩キャンパス 〒206-8540
東京都多摩市唐木田2丁目7番地1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(ハナムラ クニアキ) 花村 邦昭 (平成20年12月)		
学長	(オオバ サチオ) 大場 幸夫 (平成20年4月)		
研究科長	(イトウ トモヤス) 伊藤 朋恭 (平成22年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)

平成23年度に報告する内容 → (23)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成21年度開設の博士後期課程の場合(平成23年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画		備考	
	修業年限	入学定員		収容定員
人間文化研究科	年	人	人	基礎となる学部等 家政学部 文学部 社会情報学部 人間関係学部 比較文化学部
人間生活科学専攻(博士後期課程) 博士(生活科学)	3	3	9	
人間生活科学専攻(修士課程) 修士(生活科学)	2	12	24	
言語文化学専攻(博士後期課程) 博士(文学)	3	3	9	
言語文化学専攻(修士課程) 修士(文学)	2	8	16	
現代社会研究専攻(修士課程) 修士(社会学)	2	6	12	
臨床心理学専攻(修士課程) 修士(心理学)	2	6	12	

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

博士後期課程 人間生活科学専攻

区分	報告年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成21年度	平成22年度	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	3人 (-) [-]	-人 (-) [-]	3人 (-) [-]	-人 (-) [-]	0.50倍	社会人の入学定員は特別設けていない
志願者数	() []	() []	3 [1]	- [-]	- [-]	- [-]		
受験者数	() []	() []	3 [1]	- [-]	- [-]	- [-]		
合格者数	() []	() []	3 [1]	- [-]	- [-]	- [-]		
B 入学者数	() []	() []	3 [1]	- [-]	- [-]	- [-]		
入学定員超過率 B/A			1.00		0			

博士後期課程 言語文化学専攻

区分	報告年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成21年度	平成22年度	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	3人 (-) [-]	-人 (-) [-]	3人 (-) [-]	-人 (-) [-]	0.16倍	社会人の入学定員は特別設けていない
志願者数	() []	() []	- [-]	- [-]	2 [1]	- [-]		
受験者数	() []	() []	- [-]	- [-]	2 [1]	- [-]		
合格者数	() []	() []	- [-]	- [-]	1 [-]	- [-]		
B 入学者数	() []	() []	- [-]	- [-]	1 [-]	- [-]		
入学定員超過率 B/A			0.00		0.33			

修士課程 人間生活科学専攻

区分	報告年度 平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	12人 (-) [-]	-人 () []	12人 (-) [-]	-人 () []	0.91倍	社会人の入学定員は特別設けていない
志願者数	() []	() []	14 (2) [-]	- (-) [-]	10 (3) [-]	- (-) [-]		
受験者数	() []	() []	14 (2) [-]	- (-) [-]	10 (3) [-]	- (-) [-]		
合格者数	() []	() []	14 (2) [-]	- (-) [-]	9 (2) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	() []	() []	14 (2) [-]	- (-) [-]	8 (2) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A			1.16		0.66			

修士課程 言語文化学専攻

区分	報告年度 平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	8人 (-) [-]	-人 () []	8人 (-) [-]	-人 () []	0.81倍	社会人の入学定員は特別設けていない
志願者数	() []	() []	7 (-) [-]	- (-) [-]	8 (-) [-]	- (-) [-]		
受験者数	() []	() []	7 (-) [-]	- (-) [-]	8 (-) [-]	- (-) [-]		
合格者数	() []	() []	7 (-) [-]	- (-) [-]	8 (-) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	() []	() []	5 (-) [-]	- (-) [-]	8 (-) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A			0.62		1.00			

修士課程 現代社会研究専攻

区分	報告年度 平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	6人 (-) [-]	-人 () []	6人 (-) [-]	-人 () []	0.83倍	社会人の入学定員は特別設けていない
志願者数	() []	() []	9 (4) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]		
受験者数	() []	() []	8 (3) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]		
合格者数	() []	() []	8 (3) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	() []	() []	8 (3) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A			1.33		0.33			

修士課程 臨床心理学専攻

区分	報告年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 人		6人	-人	6人	-人			1.08倍	社会人の入学定員は特別設けていない
	()	()	(-)	(-)	(-)	(-)				
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]				
志願者数	()	()	15	-	25	-				
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]				
受験者数	()	()	13	-	25	-				
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]				
合格者数	()	()	7	-	8	-				
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]				
B 入学者数	()	()	5	-	8	-				
	[]	[]	[-]	[-]	[-]	[-]				
入学定員超過率 B/A			0.83		1.33					

- (注) ・ () 内には、社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については、認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、**計算の際は「入学定員超過率」と同様**にしてください。
 ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学年	報告年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[]	[]	[1]	[-]	[0]	[-]			
			35	-	27	-			
2年次			[]	[]	[1]	[]			
						33			
3年次					[]	[]			
計	[]		[1]		[1]				
			35		60				

- (注) ・ [] 内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学者数、留学整数**を記入してください。
 ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
(主な退学理由)			
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
(主な退学理由)			
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [2]	(累積)計 [35]	5.7%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 2人	うち平成22年度 35人	
(主な退学理由) その他(進路熟考) 1名 その他(経済的困窮) 1名			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した在学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<人間文化研究科人間生活科学専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
生活人間学専修	発達環境学演習	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(23)
	老年学特論	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	行動疫学特論	1・2・3後 未開講 1・2・3後		2		1						通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	生物環境学特論	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	運動生理学特論	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
臨床人間学専修	発達臨床学特論	未開講 1・2・3後		2		2	1					共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 平成22年4月1日付准教授から教授に昇格 教授1名は開講 教授1名は履修希望者がいなかった(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	保育臨床学特論	未開講 1・2・3後		2								履修希望者がいなかったため(22)(23)
	乳幼児保育学特論	未開講 1・2・3前		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	子ども家庭福祉学特論	未開講 1・2・3後前		2		1						教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	比較子ども文化論演習	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(23)
生活計画学専修	生活環境機能学特論	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	病態栄養学特論	未開講 1・2・3後前		2		1						教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	被服設計学演習	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	食生活安全学特論	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	調理学特論	未開講 1・2・3前		2								履修希望者がいなかったため(22)(23)
生活素材学専修	生活材料学特論	未開講 1・2・3前		2								履修希望者がいなかったため(22)(23)
	生体機能材料学特論	未開講 1・2・3前		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	食品機能学特論	未開講 1・2・3前		2		1						履修希望者がいなかったため(23)
	栄養素機能学演習	未開講 1・2・3前		2		1						履修希望者がいなかったため(23)
	調理素材学特論	未開講 1・2・3後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1) 授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3) 未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
0	20	0	20	0	20	0	20	
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。(ただし, 未開講科目があった場合は, (1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

<人間文化研究科言語文化学専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
日本文学専修	古代文学特論Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	古代文学特論Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	中世文学特論Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	中世文学特論Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	近世文学特論Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	近世文学特論Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(古代)Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(古代)Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(中世)Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(中世)Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(近世)Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(近世)Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	近代現代文学特論Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	近代現代文学特論Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	近代現代文学特論Ⅲ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	近代現代文学特論Ⅳ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(近代現代Ⅰ)	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(近代現代Ⅱ)	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(近代現代Ⅲ)	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
	研究指導(近代現代Ⅳ)	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22)(23)
英語文学分野	英文学特論Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	英文学特論Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	英文学特殊研究Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	英文学特殊研究Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	米文学特論Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	米文学特論Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	米文学特殊研究Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	米文学特殊研究Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	研究指導(英文学)Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	研究指導(英文学)Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	研究指導(米文学)Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23) 教授1名退職したため(23)
	研究指導(米文学)Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23) 教授1名退職したため(23)
	英語教育学特論Ⅰ	未開講 1・2・3前		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	英語教育学特論Ⅱ	未開講 1・2・3後		2		1						入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)

学・英語教育専修	英語教育分野	英語教育学特殊研究 I	未開講 1・2・3前		2		1			共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を入れ替えた 入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		英語教育学特殊研究 II	未開講 1・2・3後		2		1			共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を入れ替えた 入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		研究指導(英語教育学) I	未開講 1・2・3前		2		2 ±			共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		研究指導(英語教育学) II	未開講 1・2・3後		2		2 ±			共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	英語学分野	英語学特論 I	1・2・3前 未開講 1・2・3前		2		1			通常開講(23) 入学者がいなかったため(22)
		英語学特論 II	1・2・3後 未開講 1・2・3後		2		1			通常開講(23) 入学者がいなかったため(22)
		英語学特殊研究 I	未開講 1・2・3前		2		1			入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		英語学特殊研究 II	未開講 1・2・3後		2		1			入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		研究指導(英語学) I	未開講 1・2・3前		2		2			入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		研究指導(英語学) II	未開講 1・2・3後		2		2			入学者がいなかったため(22) 履修希望者がいなかったため(23)

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1) 授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3) 未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
0	44	0	44	0	44	0	44	
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。(ただし, 未開講科目があった場合は, (1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

<人間文化研究科人間生活科学専攻（修士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	Developing Critical Thinking Skills	未開講 1前		1							履修希望者がいなかったため(22)(23)
	Critical Reading and Writing	未開講 1前		1							履修希望者がいなかったため(22)(23)
共通科目	家族関係論	1・2前		2			1				
	ヒトと環境	未開講 1・2後		2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	健康科学	1・2前後		2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22)
	環境成長学	1・2前後		2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22)
	生活情報論	1・2後前後		2		1	1				教育課程充実のため開講期を変更(22)(23) 教授1名退職にともない准教授1名を採用したため(23)
	統計的調査方法論	1・2後		2		1					
	研究方法論Ⅰ（事例研究）	未開講 1・2前後		2		2					オムニバス 教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	研究方法論Ⅱ（フィールド研究）	未開講 1・2後		2		1 2	1				オムニバス 履修希望者がいなかったため(23) 教授1名退職にともない准教授1名を担当したため
生涯学習の教育方法論	1・2前 未開講 1・2前		2		1					通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
健康・栄養科学専修	栄養化学分野	栄養生化学特論	1・2後前	2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22)
		栄養生化学・細胞学実験	1・2後	1		2					オムニバス
		分子細胞学	1・2前後	2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22)
	食品・機能学分野	食品機能学特論	1・2前	2		1					
		材料機能学特論	1・2前後	2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22)
		食生活安全学	1・2後前	2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22)
		食品微生物学特論	1・2後	2		1					
		食品・機能学領域実験	未開講 1・2後	1		2					オムニバス 履修希望者がいなかったため(22)(23)
	調理科学・食嗜好学分野	調理科学特論	1・2前	2		1					
		調理科学特論演習	1・2後	2		1					通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
		食嗜好学特論	1・2前後	2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22)
		食嗜好学特論演習	未開講 1・2後	2		1					履修希望者がいなかったため(22)(23)
	保健・栄養学分野	病態・高齢者代謝学	未開講 1・2前	2		1					履修希望者がいなかったため(23)
		栄養疫学特論	1・2前	2			1				
栄養疫学特論演習		1・2後	2			1					
公衆衛生学特論		1・2前後	2		1					教育課程充実のため開講期を変更(22)	
生命環境特論		未開講 1・2前	2		1					履修希望者がいなかったため(23)	
	生命環境特論演習	未開講 1・2後	2		1					履修希望者がいなかったため(23)	

生活環境学専修	環境サイエンス分野	生活環境特論	1・2前 未開講 1・2前	2	1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
		生活環境特論演習	1・2後 未開講 1・2後	2	1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
		環境衛生学特論	1・2後 未開講 1・2前	2	1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23) 教授1名退職し兼任講師となったため(23)
		地球環境特論Ⅰ	未開講 1・2前後	2	1				教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		地球環境特論Ⅱ	未開講 1・2後	2	1				履修希望者がいなかったため(23)
		地球環境特論演習Ⅰ	未開講 1・2前後	2	1				教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		地球環境特論演習Ⅱ	未開講 1・2後	2	1				履修希望者がいなかったため(23)
	環境マネジメント分野	環境教育特論	1・2前	2	1				
		環境教育特論演習	未開講 1・2後	2	1				履修希望者がいなかったため(23)
		環境アセスメント特論	未開講 1・2前	2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
		環境アセスメント特論演習	未開講 1・2後	2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
		環境政策特論	未開講 1・2前	2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
		環境政策特論演習	未開講 1・2後	2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
		環境思想史特論	集中 1・2前	2					教育課程充実のため開講期を変更(22)
		自然学校特論	集中 1・2後	2					教育課程充実のため開講期を変更(22)
		野外教育特論	集中 1・2前	2					教育課程充実のため開講期を変更(22)
	生活環境デザイン分野	衣生活材料特論	未開講 集中 1・2前	2					教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		衣生活材料特論演習	未開講 集中 1・2後	2					教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		生活環境機能学特論	1・2前	2	1				
		生活環境機能学特論演習	1・2後	2	1				
		被服管理学特論	1・2前	2		1			
		被服管理学特論演習	未開講 1・2後	2		1			履修希望者がいなかったため(22)(23)
		住居学特論Ⅰ	未開講 1・2前	2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
		住居学特論Ⅱ	未開講 1・2後	2		1	1		平成22年4月1日付講師から准教授に昇格(22) 履修希望者がいなかったため(22)(23)
住居学特論演習		未開講 1・2後	2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)	
住環境特論		1・2前 未開講 1・2前	2		1			通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
住環境特論演習		未開講 1・2後	2		1			履修希望者がいなかったため(22)(23)	
生活環境学特別講義	集中 1・2後	2					教育課程充実のため開講期を変更(22)		
基礎教育分野	児童発達臨床学基礎理論	1・2前後	2					教育課程充実のため開講期を変更(22)	
	乳幼児発達臨床特論	1・2前後	2	1				社会人学生に対して後期夜間にも開講(22)(23) 教育課程充実のため開講期を変更(22)	
	臨床教育学特論	1・2前	2		2	1		共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置(22) 社会人学生に対して夜間にも開講(22)(23) 教授1名は開講 教授1名は履修希望者がいなかった(23)	
	生涯発達心理学特論	未開講 1・2前後	2		1			社会人学生に対して後期夜間にも開講(22) 履修希望者がいなかったため(23)	

児童発達臨床学専修	保育・教育分野	保育臨床特論	1・2前後	2	1	±			平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 社会人学生に対して夜間にも開講(22)(23) 教育課程充実のため開講期を変更(23)
		乳幼児発達保育研究特論	1・2後前	2	1				教育課程充実のため開講期を変更(23)
		幼児教育実践演習	1・2後前	2	1				教育課程充実のため開講期を変更(22)
		学校教育実践研究特論	1・2後前	2		2	±		共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(准教授)を配置 教育課程充実のため開講期を変更(22)
		小学校教育実践演習	未開講 1+2後	2		1			履修希望者がいなかったため(22)(23)
		初等理科教育演習	未開講 1+2後	2		1			履修希望者がいなかったため(22)(23)
		子育て・子育て支援演習	1・2前後	2		1	±		社会人学生に対して前期夜間にも開講(22)(23) 平成23年4月1日付准教授から教授に昇格(23)
		学校保健学特論	未開講 1+2前	2		1			履修希望者がいなかったため(22)(23)
		芸術教育研究特論	1・2前後	2		1			教育課程充実のため開講期を変更(23)
		特別支援教育研究特論	集中 未開講 1+2前	2					履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23)
		子どもに関する公共政策論	未開講 1+2前後	2					教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		保育マネジメント特論	未開講 1+2後	2					履修希望者がいなかったため(23)
		保育アセスメント特論	集中 1+2後	2					教育課程充実のため開講期を変更(22)
		心理・社会・文化分野	教育心理学特論	1・2後 未開講 1+2後	2				
臨床発達心理学演習	1・2後		2		1				
子ども家庭福祉学特論	未開講 1+2前後		2		1			社会人学生に対して後期夜間にも開講(22) 履修希望者がいなかったため(23)	
社会学的臨床実践演習	未開講 1+2前後		2		1			教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)	
子ども史研究基礎演習	1・2前 未開講 1+2後		2			1		通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23)	
音楽表現演習	1・2前後		2		1			教育課程充実のため開講期を変更(22)	
社会精神医学特論	未開講 1+2前		2					履修希望者がいなかったため(22)(23)	
高度目指す分野を	インディペンデントスタ ディ	1・2後	2		6 5	±		平成22年4月1日付准教授から教授に昇格 教授2名のみ開講 教授4名は履修希望者がいなかった(22) 教授1名のみ開講 教授5名は履修希望者がいなかった(23)	
研究指導	人間生活科学特別研究	1・2通	10		24 22	2 3		共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 平成22年4月1日付准教授から教授に昇格 教授8名のみ開講 教授16名准教授2名は履修希望者がいなかった(22) 教授8名准教授1名のみ開講 教授16名准教授1名は履修希望者がいなかった(23)	

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 1	科目 82	科目 0	科目 83	科目 1 []	科目 82 []	科目 0 []	科目 83 []	

(注)・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。(ただし, 未開講科目があった場合は, (1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

<人間文化研究科言語文化学専攻（修士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	Developing Critical Thinking Skills	1前		1		1						共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置(22)	
	Critical Reading and Writing	1前		1		1						共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置(22)	
	Fundamentals of Reading I	1前後		2		±						教育課程充実のため開講期を変更(22) 教授1名退職し兼任講師となったため(23)	
	Fundamentals of Reading II	1後前		2		1						教育課程充実のため開講期を変更(22)	
	Academic Writing I	1前		2						1			
	Academic Writing II	1後		2						1			
	Professional English	集中 1・2後		2									教育課程充実のため開講期を変更(22)
	日本文学研究方法論	1前		2			1	±					平成23年4月1日付講師から准教授に昇格(23)
	日本文学基礎演習	1後前		2		1							教育課程充実のため開講期を変更(22)
国際文化研究法	1前・後		2		1	1						教授のみ開講 准教授は履修希望者がいなかった(22)	
共通科目	翻訳技術論	未開講 1・2前		2		1						履修希望者がいなかったため(23)	
	児童文学論	1・2前 未開講 1・2後		2		1						通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23)	
	比較文学	1・2前		2		1							
	草稿・テキスト学	1・2後		2		1							
	文学と教育	1・2前後		2			1	±				教育課程充実のため開講期を変更(22) 平成23年4月1日付講師から准教授に昇格(23)	
日本文学専修 近代	古代文学演習 I	未開講 1・2前		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)	
	古代文学演習 II	未開講 1・2後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)	
	古代文学講義 I	未開講 1・2前		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)	
	古代文学講義 II	未開講 1・2後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)	
	中世文学演習 I	未開講 1・2前		2		1						隔年開講のため今年度開講せず(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
	中世文学演習 II	未開講 1・2後		2		1						隔年開講のため今年度開講せず(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
	中世文学講義 I	1・2前 未開講 1・2前		2		1						通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)	
	中世文学講義 II	1・2後 未開講 1・2後		2		1						通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)	
	近世文学演習 I	1・2前 未開講 1・2前		2		1						通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)	
	近世文学演習 II	1・2後 未開講 1・2後		2		1						通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)	
	近世文学講義 I	未開講 1・2前		2		1						隔年開講のため今年度開講せず(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
	近世文学講義 II	未開講 1・2後		2		1						隔年開講のため今年度開講せず(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
	近代文学演習 I	1・2前		2		1							
近代文学演習 II	1・2後		2		1								

現代文学分野	近代文学講義Ⅰ	1・2前		2		1					
	近代文学講義Ⅱ	1・2後		2		1					
	現代文学講義Ⅰ	1・2前		2		1	±			平成23年4月1日付講師から准教授に昇格(23)	
	現代文学講義Ⅱ	1・2後		2		1	±			平成23年4月1日付講師から准教授に昇格(23)	
	日本語学分野	日本語学演習Ⅰ	未開講 1・2前		2		1				隔年開講のため今年度開講せず(23) 履修希望者がいなかったため(22)
		日本語学演習Ⅱ	未開講 1・2後		2		1				隔年開講のため今年度開講せず(23) 履修希望者がいなかったため(22)
		日本語学講義Ⅰ	1・2前 未開講 1・2前		2		1				通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)
		日本語学講義Ⅱ	1・2後 未開講 1・2後		2		1				通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)
	関連分野	語学文学特論Ⅰ	未開講 1・2前		2						履修希望者がいなかったため(22)(23)
		語学文学特論Ⅱ	未開講 1・2後		2						履修希望者がいなかったため(22)(23)
		中国文学特論Ⅰ	未開講 1・2前		2		1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
		中国文学特論Ⅱ	未開講 1・2後		2		1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	英語文学分野	文学と理論(作者・テキスト・読者)	1・2前 未開講 1・2前		2		1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
		文学と制度(シエンダー・クラス・マイノリティー)	1・2後		2		1				
		文学と自然(風土・人種・母語)	1・2後 未開講 1・2前		2		1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23)
		英米詩	1・2後前		2		1				教育課程充実のため開講期を変更(22)
英米小説Ⅰ		1・2前後		2		1				教育課程充実のため開講期を変更(22)	
英米小説Ⅱ		1・2後前 未開講 1・2後		2		±				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23) 教授1名退職し兼任講師となったため(23)	
英米演劇Ⅰ		未開講 1・2前		2		1				履修希望者がいなかったため(23)	
英米演劇Ⅱ		1・2後 未開講 1・2後		2		1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
英米散文		未開講 1・2後		2		1				履修希望者がいなかったため(23)	
英語教授法研究		1・2前 未開講 1・2前		2		1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
英語教育リサーチ方法		1・2後 未開講 1・2後		2		1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
スピーキング・ライティング指導演習		未開講 1・2前		2		1				隔年開講のため今年度開講せず(23) 履修希望者がいなかったため(22)	
リーディング・リスニング指導演習		1・2前 未開講 1・2後		2		1				通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23)	
英語教育分野		児童英語教育方法	未開講 1・2前		2		1				共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 履修希望者がいなかったため(22)(23)
	児童英語コミュニケーション演習	未開講 1・2後		2		1				共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 履修希望者がいなかったため(22)(23)	
	児童英語カリキュラム研究	未開講 1・2前		2		1				共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 履修希望者がいなかったため(22)(23)	
	児童英語教材演習	未開講 1・2後		2		1				共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 履修希望者がいなかったため(22)(23)	
	英語の構造	未開講 1・2前		2		1				履修希望者がいなかったため(23)	

英語学分野	英語の意味	未開講 1・2後		2	1				隔年開講のため今年度開講せず(23)
	英語の音声	未開講 1・2前後		2	1				教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	発話の機能	未開講 1・2後前		2	1				隔年開講のため今年度開講せず(23) 教育課程充実のため開講期を変更(22)
	語法文法研究	1・2前 未開講 1・2前		2	1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	談話分析研究	1・2後 未開講 1・2後		2	1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	コーパス言語学	未開講 1・2前		2	1				教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	テキスト言語学	1・2後 未開講 1・2後		2	1				通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)
地域文化分野	アジア文化演習(中国) I	1・2前		2	2				
	アジア文化演習(中国) II	1・2後 未開講 1・2後		2	2				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	アジア文化演習(朝鮮半島) I	1・2前		2			1		
	アジア文化演習(朝鮮半島) II	1・2後 未開講 1・2後		2			1		通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	太平洋文化演習 I	未開講 1・2前		2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	太平洋文化演習 II	未開講 1・2後		2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	ヨーロッパ文化演習(イギリス) I	未開講 1・2前		2	1 2				履修希望者がいなかったため(22)(23) 教授1名退職し兼任講師となったため(23)
	ヨーロッパ文化演習(イギリス) II	未開講 1・2後		2	1 2				教授1名のみ開講 教授1名は履修希望者がいなかった(22) 履修希望者がいなかったため(23) 教授1名退職し兼任講師となったため(23)
	ヨーロッパ文化演習(フランス) I	未開講 1・2前		2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	ヨーロッパ文化演習(フランス) II	未開講 1・2後		2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	ヨーロッパ文化演習(ドイツ) I	未開講 1・2前		2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	ヨーロッパ文化演習(ドイツ) II	未開講 1・2後		2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	ヨーロッパ文化演習(東中欧・ロシア) I	1・2前 未開講 1・2前		2	1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	ヨーロッパ文化演習(東中欧・ロシア) II	未開講 1・2後		2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
国際文化専修	アメリカ文化演習 I	未開講 1・2前		2	1	1 2			平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 履修希望者がいなかったため(22)(23)
	アメリカ文化演習 II	未開講 1・2後		2	1	1 2			履修希望者がいなかったため(22)(23) 平成23年4月1日付准教授から教授に昇格(23)
	国際交渉論	1・2前 未開講 1・2前		2	1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教授1名退職し兼任講師となったため(23)
	国際教育論	1・2後 未開講 1・2後		2	1				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	国際関係論	1・2後 未開講 1・2前		2			1		通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23)
	国際交流論	1・2前 未開講 1・2前・後		2	2				通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教授1名のみ開講 教授1名は履修希望者がいなかった(23)
	比較社会論	未開講 1・2前・後		2	2				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	比較思想論	未開講 1・2後		2	1				履修希望者がいなかったため(22)(23)
	比較文化論	1・2前		2	1				
	民族共生論	未開講 1・2後		2	1	1			平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 履修希望者がいなかったため(22)(23)

連分野	言語文化論	未開講 1・2前		2		1				履修希望者がいなかったため (22) (23) 教授1名退職し兼任講師となったため (23)
	表象文化論	1・2後 未開講 1・2後		2		1				通常開講 (23) 履修希望者がいなかったため (22)
研究指導	言語文化学特別研究	1・2通	8			27 30 29				共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員(教授)を配置 (22) 教授5名のみ開講 教授25名は履修希望者がいなかった (22) 教授4名退職に伴い、教授1名を採用したため (23) 教授8名のみ開講 教授19名は履修希望者がいなかった (23)

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 1	科目 92	科目 0	科目 93	科目 1	科目 92	科目 0	科目 93	
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。(ただし, 未開講科目があった場合は, (1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

<人間文化研究科現代社会研究専攻（修士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	Developing Critical Thinking Skills	未開講 1・前		1								履修希望者がいなかったため(23)
	Critical Reading and Writing	未開講 1・前		1								履修希望者がいなかったため(23)
情報コミュニケーション専修	基礎理論分野											
	社会情報研究基礎論	1・2前		2		1						
	メディア研究基礎論	1・2前		2		1						
	コミュニケーション研究基礎論	1・2前後		2		1						教育課程充実のため開講期を変更(22)
	社会情報の歴史	1・2前		2		1						
	情報社会及び情報倫理特論	1・2前後		2		1						教育課程充実のため開講期を変更(23)
	新聞特論	未開講 1・2後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	放送・通信特論	1・2後 未開講 1・2後		2		1						通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	マスコミ言語特論	1・2前 未開講 1・2後		2		1						通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23)
	災害情報特論	未開講 1・2後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	世界経済情報特論	未開講 1・2前		2		1						履修希望者がいなかったため(23)
	日本経済情報特論	1・2前 未開講 1・2前		2		1						通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	地域再生システム論	未開講 1・2後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	ソフトウェア特論	未開講 1・2前		2		1						履修希望者がいなかったため(23)
	社会・経済と情報分野	学習科学特論	未開講 1・2前後		2			1				教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	情報ネットワーク特論演習	未開講 1・2前		2		1						履修希望者がいなかったため(23)
	情報システム特論	未開講 1・2前		2		1						履修希望者がいなかったため(23)
	マルチメディア特論演習	未開講 1・2後		2								履修希望者がいなかったため(23)
	情報処理特論	未開講 1・2前		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)
	コンピュータグラフィックス特論演習	未開講 1・2後前		2		1						教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
情報と職業特論	未開講 1・2後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)	
情報教育教材開発特論演習	未開講 1・2後		2		1						履修希望者がいなかったため(22)(23)	
生と死の臨床分野	ケアマネジメント論	未開講 1・2後前		2		1						オムニバス 教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
	ターミナルケア論	未開講 1・2後		2			2 ±	±				オムニバス 平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 履修希望者がいなかったため(22)(23)
	死と死別の臨床心理	1・2前後		2								教育課程充実のため開講期を変更(22)
	ライフケア特論	1・2前 未開講 1・2後		2		1						通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22) 教育課程充実のため開講期を変更(23)
	老いと死の社会理論	1・2前後前		2								教育課程充実のため開講期を変更(22)(23)
	医療福祉特論	未開講 1・2後		2		1	±					履修希望者がいなかったため(23) 平成23年4月1日付准教授から教授に昇格(23)
生と死の臨床特別実習(インターシップ)	未開講 1・2後		2			2 ±	±				オムニバス 平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 履修希望者がいなかったため(22)(23)	

臨床社会学専修	ジェンダー臨床分野	ジェンダーの社会学	1・2前 集中 1・2後		2		1			兼任講師の辞退にともない担当者を教授としたため(23) 教育課程充実のため開講期を変更(22)(23)
		ジェンダーと医療	1・2後		2		2 ±	±		オムニバス 平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22)
		ジェンダーとメンタルヘルス	未開講 1・2後前		2					教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		ジェンダーと法律学	未開講 集中 1・2後		2					教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		性暴力に関する調査と方法	未開講 1・2前		2		1			履修希望者がいなかったため(23)
		社会福祉援助論(女性と自立支援)	未開講 1・2前		2		1	±		履修希望者がいなかったため(23) 平成23年4月1日付准教授から教授に昇格(23)
		ジェンダーと臨床特別実習(インターシップ)	1・2前		2		1			
	現代社会学理論・社会調査分野	アイデンティティ論	未開講 1・2前後		2		1			教育課程充実のため開講期を変更(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		宗教と社会特論	1・2前 未開講 1・2前		2		1			通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
		現代社会学理論研究	1・2前		2		1	±		平成23年4月1日付准教授から教授に昇格(23)
		リスク社会学論	1・2後		2		1	±		平成23年4月1日付准教授から教授に昇格(23)
		社会運動論	未開講 1・2前		2		1	±		平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 履修希望者がいなかったため(23)
		地域文化論	1・2後		2		1			
		ネットワーク論	1・2前		2			1	±	平成23年4月1日付講師から准教授に昇格(23)
研究指導	現代社会研究特別演習	1・2通	4			18 16 14	2 4		平成22年4月1日付准教授から教授に昇格2名(22) 教授3名准教授1名のみ開講 教授13名准教授1名は履修希望者がいなかった(22) 平成23年4月1日付准教授から教授に昇格2名(23) 教授2名のみ開講 教授16名は履修希望者がいなかった(23)	
	現代社会研究特別研究	1・2通	8			18 16 14	2 4		平成22年4月1日付准教授から教授に昇格2名(22) 教授3名准教授1名のみ開講 教授13名准教授1名は履修希望者がいなかった(22) 平成23年4月1日付准教授から教授に昇格2名(23) 教授6名開講 教授12名は履修希望者がいなかった(23)	

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
2	47	0	49	2	47	0	49	
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。(ただし, 未開講科目があった場合は, (1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

<人間文化研究科臨床心理学専攻（修士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	Developing Critical Thinking Skills	未開講 1前		1								履修希望者がいなかったため(22)(23)
	Critical Reading and Writing	未開講 1前		1								履修希望者がいなかったため(22)(23)
臨床心理学基礎分野	臨床心理学特論	1・2通	4			1						
	臨床心理面接特論A	1・2前	2			1						
	臨床心理面接特論B	1・2後	2			1						
	臨床心理査定演習A	1・2後	2			2 3 2	1			1		平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 教授1名退職にともない助教1名を担当者としたため(23)
	臨床心理査定演習B	1・2後	2			2 3 2	1			1		平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 教授1名退職にともない助教1名を担当者としたため(23)
	臨床心理基礎実習	1・2通	2			1 2				1		教授1名退職にともない助教1名を担当者としたため(23)
	臨床心理実習	1・2通	2			1 2 1	1			1		平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 教育課程充実のため開講学年を変更(22) 教授1名退職し兼任講師となったため(23)
臨床心理特別実習	1・2通	2			3 4 3	1			2 1		平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 教育課程充実のため開講学年を変更(22) 教授1名退職にともない助教1名を採用したため(23) 教授2名兼任講師3名開講 教授1名助教2名は履修希望者がいなかった(23)	
臨床心理学専門分野	臨床心理学研究法特論Ⅰ(実証的研究法)	1・2前	2									教育課程充実のため開講学年を変更(22)
	事例研究法特論	未開講 1・2前	2									集中履修希望者がいなかったため(23)
	心理統計学特論	1・2後 未開講 1・2後	2				1			1		通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22) 准教授1名退職にともない助教1名を採用したため(23)
	臨床認知心理学特論	未開講 1・2前後	2				1			1		教育課程充実のため開講期を変更(22) 隔年開講のため今年度開講せず(23) 准教授1名退職にともない助教1名を採用したため(23)
	発達心理学特論	1・2後 未開講 1・2後	2			1						通常開講(23) 履修希望者がいなかったため(22)
	社会心理学特論	1・2前 未開講 1・2前	2			1	1					通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)
	社会心理学演習	未開講 1・2前	2			1	1					履修希望者がいなかったため(22) 隔年開講のため今年度開講せず(23)
	家族支援アプローチ演習	集中 未開講 1・2前	2									集中通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)
	精神医学特論	1・2前	2									
	障害児心理学演習	1・2前	2			1						
	臨床心理学研究法特論Ⅱ(投映法基礎)	1・2前	2							1		兼任講師1名辞退にともない助教1名を採用したため(23)
	臨床心理学研究法特論Ⅲ(投映法応用)	1・2後	2			1						集中教授1名退職にともない兼任講師1名を採用したため(23)
心理療法特論Ⅰ(認知行動療法)	未開講 1・2前	2									隔年開講のため今年度開講せず(23)	

	心理療法特論Ⅱ(分析心理学)	未開講 ±2前		2		1	±			平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 履修希望者がいなかったため(22)(23)
	学校臨床心理学特論	1・2後 未開講 ±2後		2						通常開講(23) 隔年開講のため今年度開講せず(22)
	コミュニティ・アプローチ特論演習	集中 ±2前		2		2				集中
研究指導	臨床心理学特別研究	±2通	4			4 5 4	±			平成22年4月1日付准教授から教授に昇格(22) 教育課程充実のため開講学年を変更(22) 教授1名退職したため(23)

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成22年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 「配当年度」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1)授業科目表」にはその状況を反映させてください。(ただし、「(3)未開講科目」欄には記載する必要はありません)。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
9	18	0	27	9	18	0	27	
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年度に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。（ただし，未開講科目があった場合は，（1）「授業科目表」にその状況を反映させてください。）

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考				
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大妻女子大学及び大妻女子大学短期大学部と共用				
	校舎敷地	29,350.00㎡	10,200.37㎡	0㎡	39,550.37㎡					
	運動場用地	54,452.00㎡	363.61㎡	0㎡	54,815.61㎡					
	小 計	83,802.00㎡	10,563.98㎡	0㎡	94,365.98㎡					
	そ の 他	0㎡	3,490.30㎡	0㎡	3,490.30㎡					
	合 計	83,802.00㎡	14,054.28㎡	0㎡	97,856.28㎡					
(2) 校 舎	専 用	459.29㎡	58,162.19㎡	10,195.12㎡	68,816.60㎡	使用用途変更のため(23)				
		484.29㎡	50,090.33㎡	9,963.58㎡	60,538.20㎡					
		(459.29㎡)	58,162.19㎡	10,195.12㎡	68,816.60㎡					
		(484.29㎡)	50,090.33㎡	9,963.59㎡	60,538.21㎡					
(3) 教 室 等	講 義 室	90室 92室	演 習 室 36室 40室	実験実習室 97室	情報処理学習施設 15室 16室 49 (補助職員—52人)	語学学習施設 7室 2 4 (補助職員 6人)	使用用途変更のため(23) 全学共通科目の設置に伴い 補助職員を必要とする科目 が減少したため。(23)(22)			
	新設学部等の名称 人間文化研究科			室 数 108 111 室			教員の退職により減少(23)			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	すべて大学全体で共有 昨年年度受入数により、完成 年度の数値も変更した (23) 当初見込みよりも冊数が 増えたため、それに伴 い完成年度の冊数も増冊 した。(22)		
		人間文化研究科	417,793 [83,984]	6,291 [1,484]	3,378 [2,488]	7,262				
			417,662 [85,789]	6,278 [1,491]	3,422 [2,633]	7,952				
			400,925 [83,000]	7,433 [1,657]	1,810 [1,197]	6,596				
			(412,975 [83,932])	(6,274 [1,479])	(3,378 [2,488])	6,914	()		()	
計	417,793 [83,984]	6,291 [1,484]	3,378 [2,488]	7,262						
	417,662 [85,789]	6,278 [1,491]	3,422 [2,633]	7,952						
	400,925 [83,000]	7,433 [1,657]	1,810 [1,197]	6,596						
	(412,975 [83,932])	(6,274 [1,479])	(3,378 [2,488])	6,914	()	()				
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数					
	6,928.00㎡		751席		680,000冊					
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要							
	3,247.09㎡		テ ニ ス コ ー ト 7 面 グ ラ ウ ン ド 他							
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度	購入実績により変更(23)(22)	
		教員1人当り研究費等	実験系	995千円	995千円	図書購入費	1,467	1,091		2,200千円
			非実験系	918千円	918千円		2,200千円	2,200千円		2,200千円
			助手	170千円	170千円					
	共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	1,197	1,969	1,227千円			
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	区 分	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	第 1 年 次 本学卒業生 290千円減免 学生災害傷害保険 料の納入は第1年 次のみとしたため (22)	
		人間生活科学専攻 (博士後期課程)	1,245千円	973 975千円	993 995千円	- 千円	- 千円	- 千円		
		言語文化学専攻 (博士後期課程)	1,205千円	933 935千円	953 955千円	- 千円	- 千円	- 千円		
		人間生活科学専攻 (修士課程)	1,245千円	973 975千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
		言語文化学専攻 (修士課程)	1,205千円	933 934千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
現代社会研究専攻 (修士課程)		1,225千円	953 975千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
臨床心理学専攻 (修士課程)		1,225千円	953 955千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

- (注) ・ 届出時の計画を、届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	大妻女子大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定学員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
家政学研究科										
(博士後期課程)						—				
人間生活学専攻	3	—	—	—	博士(学術)	—	平成 8年度	東京都千代田区三番町12番地		平成22年度より学生募集停止
(修士課程)						—				
被服学専攻	2	—	—	—	修士(家政学)	—	昭和55年度	同上		同上
食物学専攻	2	—	—	—	修士(家政学)	—	昭和47年度	同上		同上
児童学専攻	2	—	—	—	修士(家政学)	—	昭和52年度	同上		同上
文学研究科										
(博士後期課程)						—				
国文学専攻	3	—	—	—	博士(文学)	—	平成 8年度	同上		同上
英文学専攻	3	—	—	—	博士(文学)	—	平成 8年度	同上		同上
(修士課程)						—				
国文学専攻	2	—	—	—	修士(文学)	—	昭和47年度	同上		同上
英文学専攻	2	—	—	—	修士(文学)	—	昭和47年度	同上		同上
人間関係学研究科										
(修士課程)						—				
社会学専攻	2	—	—	—	修士(社会学)	—	平成15年度	同上		同上
臨床心理学専攻	2	—	—	—	修士(心理学)	—	平成15年度	同上		同上
大学の名称	大妻女子大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定学員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
家政学部						1.15				

被服学科	4	100	—	400	学士 (家政学)	1.15	昭和43 年度	東京都千代田区 三番町12番地	
食物学科	4	100	—	400	学士 (家政学)	1.05	昭和24 年度	同上	
児童学科	4	100	—	400	学士 (家政学)	1.17	昭和43 年度	同上	
ライフデザイン学科	4	100	—	400	学士 (家政学)	1.25	平成14 年度	同上	
文学部						1.24			
日本文学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.28	昭和42 年度	同上	
英文学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.20	昭和42 年度	同上	
コミュニケーション 文化学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.25	平成14 年度	同上	
社会情報学部						1.23			
社会情報学科	4	300	—	1200	学士 (社会情 報学)	1.23	平成 4 年度	東京都多摩市唐木 田2丁目7番地1	
人間関係学部						1.22			
人間関係学科	4	150	—	600	学士 (人間関 係学)	1.26	平成11 年度	同上	
人間福祉学科	4	100	—	400	学士 (人間関 係学)	1.17	平成11 年度	同上	
比較文化学部						1.23			
比較文化学科	4	150	—	600	学士 (比較文 化学)	1.23	平成11 年度	同上	
大学の名称	大妻女子大学短期大学部								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
家政科						0.97			
家政専攻	2	180	—	380	短期大学 士(家政 学)	0.96	昭和25 年度	東京都千代田区 三番町12番地	平成23年度より 入学定員変更 200→180(△20)
生活総合ビジネス専攻	2	70	—	70	短期大学 士(家政 学)	1.02	平成23 年度	同上	
食物栄養専攻	2	150	—	350	短期大学 士(家政 学)	0.98	昭和25 年度	同上	平成23年度より 入学定員変更 200→150(△50)
国文科	2	150	—	300	短期大学 士(文学)	0.90	昭和42 年度	同上	
英文科	2	150	—	300	短期大学 士(文学)	0.95	昭和42 年度	同上	

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
- （専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）
- ・ 届出書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<人間文化研究科 人間生活科学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	副学長(研究科長)	伊藤 朋恭(71)	平成22年4月							
専	教授(専攻主任)	大澤 清二(63)	平成22年4月	発達環境学演習 行動疫学特論						
専	教授	西成 典子(67)	平成22年4月	生物環境学特論						
専	教授	橋本 勲(68)	平成22年4月	運動生理学特論	専	教授	橋本 勲(68)	平成22年4月	運動生理学特論	平成23年3月病気により担当者辞退のため平成23年度より担当者変更(23)
					専	教授	高波 嘉一(52)	平成23年4月	運動生理学特論	平成23年4月担当者の変更(23)
専	教授	柴崎 正行(58)	平成22年4月	乳幼児保育学特論						
専	教授	松本 壽昭(69)	平成22年4月	老年学特論 子ども家庭福祉学特論						
専	教授	金田 卓也(54)	平成22年4月	比較子ども文化論演習						
専	教授	阿部 栄子(57)	平成22年4月	生活環境機能学特論 被服設計学演習						
専	教授	明渡 陽子(56)	平成22年4月	病態栄養学特論						
専	教授	小山 義之(53)	平成22年4月	生体機能材料学特論						
専	教授	大森 正司(67)	平成22年4月	食品機能学特論						
専	教授	市川 朝子(64)	平成22年4月	調理素材学特論						
専	教授	青江 誠一郎(51)	平成22年4月	栄養素機能学演習						
専	教授	堀江 正一(57)	平成22年4月	食生活安全学特論						
専	准教授	田代 和美(49)	平成22年4月	発達臨床学特論	専	教授	田代 和美(49)	平成22年4月	発達臨床学特論	平成22年4月1日付昇格による職名変更

					専	教授	酒井 朗 (48)	平成22年4月	発達臨床学特論	共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員とした
兼任	講師	松永 あけみ (52)	平成22年4月	保育臨床学特論						
兼任	講師	梶原 莞爾 (69)	平成22年4月	生活材料学特論						
兼任	講師	畑江 敬子 (69)	平成22年4月	調理学特論						

(注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・年齢は、「**届出時の計画**」には**開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)**を、「**変更状況**」には**平成23年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
- ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

届出時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
14	0	14	0	15	0	15	0	
(14)	(0)	(14)	(0)	[1]	[0]	[1]	[0]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	橋本 勲	病気により大学院担当を辞任
2			
3			

(注) ・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1	大学の所見：病気というやむを得ない理由と考える 学生への周知方法：4月ガイダンス時に大学院要覧を配付し、変更の旨を連絡
---	--

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人間文化研究科 言語文化学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	副学長(研究科長)	伊藤 朋恭(71)	平成22年4月							
専	教授(専攻主任)	山名 章二(69)	平成22年4月	米文学特殊研究Ⅰ 米文学特殊研究Ⅱ 研究指導(米文学)Ⅰ 研究指導(米文学)Ⅱ						
専	教授	倉田 実(59)	平成22年4月	古代文学特論Ⅰ 古代文学特論Ⅱ 研究指導(古代)Ⅰ 研究指導(古代)Ⅱ						
専	教授	柏木 由夫(61)	平成22年4月	中世文学特論Ⅰ 中世文学特論Ⅱ 研究指導(中世)Ⅰ 研究指導(中世)Ⅱ						
専	教授	石川 了(60)	平成22年4月	近世文学特論Ⅰ 近世文学特論Ⅱ 研究指導(近世)Ⅰ 研究指導(近世)Ⅱ						
専	教授	須田 喜代次(58)	平成22年4月	近代現代文学特論Ⅰ 近代現代文学特論Ⅱ 研究指導(近代現代Ⅰ) 研究指導(近代現代Ⅱ)						
専	教授	杉浦 静(57)	平成22年4月	近代現代文学特論Ⅲ 近代現代文学特論Ⅳ 研究指導(近代現代Ⅲ) 研究指導(近代現代Ⅳ)						
専	教授(副学長)	栗原 裕(69)	平成22年4月	英文学特殊研究Ⅰ 英文学特殊研究Ⅱ 研究指導(英文学)Ⅰ 研究指導(英文学)Ⅱ	専	教授(副学長)	栗原 裕(69)	平成22年4月	英文学特殊研究Ⅰ 英文学特殊研究Ⅱ 研究指導(英文学)Ⅰ 研究指導(英文学)Ⅱ	平成23年3月定年により退職 ただし、役職の副学長は継続(23)
					専	教授	田口 孝夫(63)	平成23年4月	英文学特殊研究Ⅰ 英文学特殊研究Ⅱ	平成23年4月大学院博士後期課程担当の変更(23)
専	教授	村上 丘(56)	平成22年4月	英語学特論Ⅰ 英語学特論Ⅱ 研究指導(英語学)Ⅰ 研究指導(英語学)Ⅱ						

専	教授	河野 武 (65)	平成22年4月	英語学特殊研究 I 英語学特殊研究 II 研究指導(英語 学) I 研究指導(英語 学) II						
専	教授	伊東 武彦 (53)	平成22年4月	英語教育学特論 I 英語教育学特論 II 英語教育学特殊 研究 I 英語教育学特殊 研究 II 研究指導(英語教 育学) I 研究指導(英語教 育学) II	専	教授	伊東 武彦 (53)	平成22年4月	英語教育学特論 I 英語教育学特論 II 研究指導(英語教 育学) I 研究指導(英語教 育学) II	平成22年4月 共同教職研究科認可申請取 り下げに伴い、服部孝彦教 授を本大学院担当教員とし たことにより担当科目変更 (22)
専	教授	小林 史子 (64)	平成22年4月	米文学特論 I 米文学特論 II 研究指導(米文 学) I 研究指導(米文 学) II	専	教授	小林 史子 (64)	平成22年4月	米文学特論 I 米文学特論 II 研究指導(米文 学) I 研究指導(米文 学) II	平成23年3月やむを得ない事 情により退職(23)
					兼任	講師	小林 史子 (65)	平成23年4月	米文学特論 I 米文学特論 II	平成23年4月から兼任講師と して就任(23) 平成23年4月担当科目の変更 (23)
専	教授	小林 昌夫 (64)	平成22年4月	英文学特論 I 英文学特論 II	専	教授	小林 昌夫 (64)	平成22年4月	英文学特論 I 英文学特論 II 研究指導(英文 学) I 研究指導(英文 学) II	平成23年4月担当科目の変更 (23)
					専	教授	服部 孝彦 (57)	平成22年4月	英語教育学特殊 研究 I 英語教育学特殊 研究 II 研究指導(英語教 育学) I 研究指導(英語教 育学) II	平成22年4月 共同教職研究科認可申請取 り下げに伴い、本大学院担 当教員とした

(注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

- なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程))の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・年齢は、「届出時の計画」には**開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)**を、「変更状況」には**平成23年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
 - ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
12	0	12	0	11	0	11	0	
(12)	(0)	(12)	(0)	[Δ 1]	[0]	[Δ 1]	[0]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ 1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	栗原 裕	定年による退職のため
2	教授	小林 史子	本人の家庭的な都合による退職のため
3			

(注) ・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1大学の所見：定年による退職というやむを得ない理由と考える
2大学の所見：本人の私的な都合でありやむを得ない理由と考える
学生への周知方法：4月ガイダンス時に大学院要覧を配付し、変更の旨を連絡

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人間文化研究科 人間生活科学専攻（修士課程）>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	副学長 (研究科長)	伊藤 朋恭 (71)	平成22年4月							
専	教授 (専攻主任)	大澤 清二 (63)	平成22年4月	環境成長学 統計的調査方法論 研究方法論Ⅱ (フィールド研究)※ 学校保健学特論 インディペンデントスタディ 人間生活科学特別研究						
専	教授	青江 誠一郎 (51)	平成22年4月	栄養生化学特論 栄養生化学・細胞学実験※ 人間生活科学特別研究						
専	教授	大森 正司 (67)	平成22年4月	食品機能学特論 食品微生物学特論 食品・機能学領域実験※ 人間生活科学特別研究						
専	教授	小山 義之 (53)	平成22年4月	材料機能学特論						
専	教授	市川 朝子 (64)	平成22年4月	食品・機能学領域実験※ 調理科学特論 調理科学特論演習 人間生活科学特別研究						
専	教授	明渡 陽子 (56)	平成22年4月	病態・高齢者代謝学 人間生活科学特別研究						
専	教授	井上 榮 (70)	平成22年4月	公衆衛生学特論 健康科学 人間生活科学特別研究						
専	教授	西成 典子 (67)	平成22年4月	生活環境特論 生活環境特論演習 ヒトと環境 人間生活科学特別研究						
専	教授	北原 節子 (67)	平成22年4月	環境衛生学特論	専	教授	北原 節子 (67)	平成22年4月	環境衛生学特論	平成23年3月やむを得ない事情により退職(23)
					兼任	講師	北原 節子 (68)	平成23年4月	環境衛生学特論	平成23年4月から兼任講師として就任(23)
専	教授	井上 源喜 (64)	平成22年4月	地球環境特論Ⅰ 地球環境特論演習Ⅰ 人間生活科学特別研究						

専	教授	生田 茂 (61)	平成22年4月	地球環境特論Ⅱ 地球環境特論演習Ⅱ 研究方法論Ⅰ (事例研究)※ 人間生活科学特別研究						
専	教授	岡島 成行 (66)	平成22年4月	環境教育特論 環境教育特論演習 人間生活科学特別研究						
専	教授	櫻井 四郎 (62)	平成22年4月	環境アセスメント特論 環境アセスメント特論演習 人間生活科学特別研究						
専	教授	黒沼 吉弘 (54)	平成22年4月	環境政策特論 環境政策特論演習 人間生活科学特別研究						
専	教授	阿部 栄子 (57)	平成22年4月	生活環境機能学特論 生活環境機能学特論演習 人間生活科学特別研究						
専	教授	松本 暢子 (53)	平成22年4月	住居学特論Ⅰ 住居学特論演習 研究方法論Ⅰ (事例研究)※ 人間生活科学特別研究						
専	教授	柴崎 正行 (58)	平成22年4月	乳幼児発達臨床特論 幼児教育実践演習 インディペンデントスタディ 人間生活科学特別研究						
専	教授	阿部 和子 (63)	平成22年4月	乳幼児発達保育研究特論 インディペンデントスタディ 人間生活科学特別研究						
専	教授	金田 卓也 (54)	平成22年4月	芸術教育研究特論 インディペンデントスタディ 人間生活科学特別研究						
専	教授	松本 壽昭 (69)	平成22年4月	子ども家庭福祉学特論 インディペンデントスタディ 人間生活科学特別研究						
専	教授	松山 博光 (57)	平成22年4月	社会学的臨床実践演習						
専	教授	益本 仁雄 (69)	平成22年4月	生活情報論 研究方法論Ⅱ (フィールド研究)※	専	教授	益本 仁雄 (69)	平成22年4月	生活情報論 研究方法論Ⅱ (フィールド研究)※	平成23年3月定年により退職 (23)
					専	准教授	内田 直子 (46)	平成23年4月	生活情報論	平成23年4月大学院修士課程 担当者の変更(23)
専	教授	川廷 宗之 (64)	平成22年4月	生涯学習の教育方法論 臨床教育学特論						
					専	教授	酒井 朗 (48)	平成22年4月	臨床教育学特論 人間生活科学特別研究	共同教職研究科認可申請取り 下げに伴い、本大学院担当 教員とした
専	教授	堀江 正一 (57)	平成22年4月	食生活安全学 人間生活科学特別研究						
専	教授	田中 直子 (48)	平成22年4月	分子細胞学 栄養生化学・細胞学実験※ 人間生活科学特別研究						

専	教授	細谷 夏実 (49)	平成22年4月	生命環境特論 生命環境特論演習 人間生活科学特別研究						
専	教授	松本 美鈴 (54)	平成22年4月	食嗜好学特論 食嗜好学特論演習 人間生活科学特別研究						
専	教授	齋藤 恵 (53)	平成22年4月	音楽表現演習						
専	准教授	石井 雅幸 (51)	平成22年4月	小学校教育実践演習 初等理科教育演習						
専	准教授	田代 和美 (49)	平成22年4月	保育臨床特論 インディペンデントスタディ 人間生活科学特別研究	専	教授	田代 和美 (49)	平成22年4月	保育臨床特論 インディペンデントスタディ 人間生活科学特別研究	平成22年4月1日付昇格による職名変更
専	准教授	小林 実夏 (45)	平成22年4月	栄養疫学特論 栄養疫学特論演習 人間生活科学特別研究						
専	准教授	小澤 千穂子 (49)	平成22年4月	家族関係論						
専	准教授	水谷 千代美 (49)	平成22年4月	被服管理学特論 被服管理学特論演習 人間生活科学特別研究						
専	准教授	大西 一也 (48)	平成22年4月	住環境特論 住環境特論演習						
専	准教授	矢野 博之 (44)	平成22年4月	学校教育実践研究特論	専	准教授	矢野 博之 (44)	平成22年4月	学校教育実践研究特論 研究方法論Ⅱ (フィールド研究)※	平成23年4月担当科目の変更(23)
					専	准教授	上山 敏 (56)	平成22年4月	学校教育実践研究特論	共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、本大学院担当教員とした
専	准教授	岡 健 (47)	平成22年4月	子育て・子育て支援演習	専	教授	岡 健 (47)	平成22年4月	子育て・子育て支援演習	平成23年4月1日付昇格による職名変更
専	准教授	高橋 ゆう子 (44)	平成22年4月	生涯発達心理学特論 臨床発達心理学演習						
専	准教授	是澤 博昭 (50)	平成22年4月	子ども史研究基礎演習						
専	講師	谷口 新 (39)	平成22年4月	住居学特論Ⅱ	専	准教授	谷口 新 (39)	平成22年4月	住居学特論Ⅱ	平成22年4月1日付昇格による職名変更
兼担	教授	服部 孝彦 (57)	平成22年4月	Developing Critical Thinking Skills Critical Reading and Writing						
兼任	講師	安藤 隆男 (55)	平成22年4月	特別支援教育研究特論						
兼任	講師	梶原 莞爾 (69)	平成22年4月	衣生活材料特論 衣生活材料特論演習						
兼任	講師	関 智子 (41)	平成22年4月	環境思想史特論 野外教育特論						
兼任	講師	西村 薫 (44)	平成22年4月	教育心理学特論						
兼任	講師	斉藤 こずゑ (58)	平成22年4月	児童発達臨床学基礎理論						

兼任	講師	川嶋 直 (56)	平成22年4月	自然学校特論						
兼任	講師	島田 隆史 (35)	平成22年4月	社会精神医学特論						
兼任	講師	和田 英太郎 (70)	平成22年4月	生活環境学特別講義						
兼任	講師	西郷 泰之 (55)	平成22年4月	子どもに関する公共政策論						
兼任	講師	吉田 正幸 (52)	平成22年4月	保育マネジメント特論						
兼任	講師	大宮 勇雄 (57)	平成22年4月	保育アセスメント特論						

(注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

- なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程))の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- 年齢は、「**届出時の計画**」には**開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)**を、「**変更状況**」には**平成23年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
- 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、**「担当授業科目の変更」**又は**「昇格」**をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
26	0	26	0	26	0	26	0	
(26)	(0)	(26)	(0)	[0]	[0]	[0]	[0]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	益本 仁雄	定年による退職のため
2	教授	北原 節子	本人の家庭的な都合による退職のため
3			

(注)・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1大学の所見：定年による退職というやむを得ない理由と考える
2大学の所見：本人の私的な都合でありやむを得ない理由と考える
学生への周知方法：4月ガイダンス時に大学院要覧を配付し、変更の旨を連絡

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人間文化研究科 言語文化学専攻（修士課程）>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	副学長 (研究科長)	伊藤 朋恭 (71)	平成22年4月							
専	教授 (専攻主任)	倉田 実 (59)	平成22年4月	日本文学基礎演習 古代文学演習Ⅰ 古代文学演習Ⅱ 言語文化学特別研究 草稿・テキスト学						
専	教授	稲葉 二柄 (67)	平成22年4月	中世文学演習Ⅰ 隔年 中世文学演習Ⅱ 隔年 中世文学講義Ⅰ 隔年 中世文学講義Ⅱ 隔年 言語文化学特別研究						
専	教授	石川 了 (60)	平成22年4月	近世文学演習Ⅰ 隔年 近世文学演習Ⅱ 隔年 近世文学講義Ⅰ 隔年 近世文学講義Ⅱ 隔年 言語文化学特別研究						
専	教授	須田 喜代次 (58)	平成22年4月	近代文学演習Ⅰ 近代文学演習Ⅱ 言語文化学特別研究						
専	教授	柏木 由夫 (61)	平成22年4月	古代文学講義Ⅰ 古代文学講義Ⅱ 言語文化学特別研究						
専	教授	杉浦 静 (57)	平成22年4月	近代文学講義Ⅰ 近代文学講義Ⅱ 言語文化学特別研究						
専	教授	増野 弘幸 (51)	平成22年4月	中国文学特論Ⅰ 中国文学特論Ⅱ						
専	教授	田口 孝夫 (62)	平成22年4月	翻訳技術論 英米小説Ⅰ 言語文化学特別研究						
専	教授	小林 史子 (64)	平成22年4月	Fundamentals of Reading I 英米小説Ⅱ 言語文化学特別研究	専	教授	小林 史子 (64)	平成22年4月	Fundamentals of Reading I 英米小説Ⅱ 言語文化学特別研究	平成23年3月やむを得ない事情により退職(23)
					兼任	講師	小林 史子 (65)	平成23年4月	Fundamentals of Reading I 英米小説Ⅱ	平成23年4月から兼任講師として就任(23) 平成23年4月担当科目の変更(23)
専	教授 (副学長)	栗原 裕 (69)	平成22年4月	文学と理論(作者・テキスト・読者) 英米散文 言語文化学特別研究	専	教授 (副学長)	栗原 裕 (69)	平成22年4月	文学と理論(作者・テキスト・読者) 英米散文 言語文化学特別研究	平成23年3月定年により退職ただし、役職の副学長は継続(23)

						専 教授	兵頭 晴子 (66)	平成23年4月	英米散文 英米詩 言語文化学特別 研究	平成23年4月大学院修士課程 担当者の変更(23)
専	教授	小林 昌夫 (64)	平成22年4月	文学と制度(ジ'ェン グ'ー'クラス'マイリ テイ) 英米詩 言語文化学特別 研究	専	教授	小林 昌夫 (64)	平成22年4月	文学と理論(作 者・テキスト・ 読者) 文学と制度(ジ'ェン グ'ー'クラス'マイリ テイ) 言語文化学特別 研究	平成23年4月担当科目の変更 (23)
専	教授	山名 章二 (69)	平成22年4月	英米演劇Ⅰ 英米演劇Ⅱ 言語文化学特別 研究						
専	教授	坂口 明德 (60)	平成22年4月	Fundamentals of Reading II 文学と自然(風 土・人種・母語) 言語文化学特別 研究						
専	教授	伊東 武彦 (53)	平成22年4月	英語教授法研究 英語教育リサー チ方法 スビ'キヤク'・ラ行イ ン'グ'指導演習 隔 年 リデ'イク'・リスニン'グ' 指導演習 隔年 言語文化学特別 研究						
専	教授	村上 丘 (56)	平成22年4月	英語の構造 英語の意味 隔 年 語法文法研究 コーパス言語学 隔年 言語文化学特別 研究						
専	教授	河野 武 (65)	平成22年4月	英語の音声 発話の機能 隔 年 談話分析研究 テキスト言語学 隔年 言語文化学特別 研究						
専	教授	中野 節子 (69)	平成22年4月	児童文学論 言語文化学特別 研究						
専	教授	松村 茂樹 (49)	平成22年4月	アジア文化演習 (中国)Ⅰ アジア文化演習 (中国)Ⅱ 国際交流論 言語文化学特別 研究						
専	教授	馬場 優子 (68)	平成22年4月	太平洋文化演習 Ⅰ 太平洋文化演習 Ⅱ 比較社会論 言語文化学特別 研究						
専	教授	葛西 康德 (54)	平成22年4月	ヨーロッパ文化 演習(イギリス) Ⅰ ヨーロッパ文化 演習(イギリス) Ⅱ 国際交渉論 言語文化学特別 研究	専	教授	葛西 康德 (54)	平成22年4月	ヨーロッパ文化 演習(イギリス) Ⅰ ヨーロッパ文化 演習(イギリス) Ⅱ 国際交渉論 言語文化学特別 研究	平成23年3月やむを得ない事 情により退職(23)
					兼任	講師	葛西 康德 (55)	平成23年4月	ヨーロッパ文化 演習(イギリス) Ⅰ ヨーロッパ文化 演習(イギリス) Ⅱ 国際交渉論	平成23年4月から兼任講師と して就任(23) 平成23年4月担当科目の変更 (23)

専	教授	森岡 修一 (63)	平成22年4月	ヨーロッパ文化演習(東中欧・ロシア)Ⅰ ヨーロッパ文化演習(東中欧・ロシア)Ⅱ 国際教育論 言語文化学特別研究						
専	教授	松村 恒 (59)	平成22年4月	比較思想論 言語文化学特別研究						
専	教授	銭 国紅 (49)	平成22年4月	アジア文化演習(中国)Ⅰ アジア文化演習(中国)Ⅱ 比較文化論 言語文化学特別研究						
専	教授	持田 公子 (62)	平成22年4月	ヨーロッパ文化演習(フランス)Ⅰ ヨーロッパ文化演習(フランス)Ⅱ 表象文化論 国際文化研究法 言語文化学特別研究						
専	教授	Bailey, B. M (67)	平成22年4月	ヨーロッパ文化演習(ドイツ)Ⅰ ヨーロッパ文化演習(ドイツ)Ⅱ 国際交流論 言語文化学特別研究						
専	教授	黒山 照子 (52)	平成22年4月	比較社会論 言語文化学特別研究						
専	教授	平井 一弘 (69)	平成22年4月	言語文化論 言語文化学特別研究	専	教授	平井 一弘 (69)	平成22年4月	言語文化論 言語文化学特別研究	平成23年3月やむを得ない事情により退職(23)
					兼任	講師	平井 一弘 (70)	平成23年4月	言語文化論	平成23年4月から兼任講師として就任(23) 平成23年4月担当科目の変更(23)
専	教授	今村 忠純 (67)	平成22年4月	比較文学 言語文化学特別研究						
専	教授	安藤 聡 (45)	平成22年4月	ヨーロッパ文化演習(イギリス)Ⅰ ヨーロッパ文化演習(イギリス)Ⅱ 言語文化学特別研究						
専	教授	吉田 光浩 (49)	平成22年4月	日本語学演習Ⅰ隔年 日本語学演習Ⅱ隔年 日本語学講義Ⅰ隔年 日本語学講義Ⅱ隔年 言語文化学特別研究						
専	准教授	Pribyl, C. B (45)	平成22年4月	国際文化研究法 アメリカ文化演習Ⅰ アメリカ文化演習Ⅱ						
専	准教授	佐藤 円 (49)	平成22年4月	アメリカ文化演習Ⅰ 民族共生論	専	教授	佐藤 円 (49)	平成22年4月	アメリカ文化演習Ⅰ 民族共生論	平成22年4月1日付昇格による職名変更
専	准教授	石井 紀子 (50)	平成22年4月	アメリカ文化演習Ⅱ	専	教授	石井 紀子 (51)	平成22年4月	アメリカ文化演習Ⅱ	平成23年4月1日付昇格による職名変更
専	講師	五味 典嗣 (36)	平成22年4月	日本文学研究方法論 文学と教育	専	准教授	五味 典嗣 (37)	平成22年4月	日本文学研究方法論 文学と教育	平成23年4月1日付昇格による職名変更
専	講師	内藤 千珠子 (36)	平成22年4月	現代文学講義Ⅰ 現代文学講義Ⅱ	専	准教授	内藤 千珠子 (37)	平成22年4月	現代文学講義Ⅰ 現代文学講義Ⅱ	平成23年4月1日付昇格による職名変更

専	助教	松田 春香 (32)	平成22年4月	アジア文化演習 (朝鮮半島) I アジア文化演習 (朝鮮半島) II 国際関係論					
専	助教	イケダ ケン (48)	平成22年4月	Academic Writing I Academic Writing II					
兼任	教授	服部 孝彦 (57)	平成22年4月	児童英語教育方法 隔年 児童英語コミュニケーション演習 隔年 児童英語ワークショップ研究 隔年 児童英語教材演習 隔年 Developing Critical Thinking Skills Critical Reading and Writing	専	教授	服部 孝彦 (57)	平成22年4月	児童英語教育方法 児童英語コミュニケーション演習 児童英語ワークショップ研究 児童英語教材演習 Developing Critical Thinking Skills Critical Reading and Writing 言語文化特別研究 共同教職研究科認可申請取り下げに伴い、兼任から専任に変更、また、4科目の隔年開講を毎年開講にし、言語文化特別研究担当教員とした
兼任	講師	服藤 早苗 (62)	平成22年4月	語学文学特論 I 語学文学特論 II					
兼任	講師	石山 宏一 (63)	平成22年4月	Professional English					

- (注) ・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程))の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・年齢は、「**届出時の計画**」には**開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)**を、「**変更状況**」には**平成23年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
 ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
30	0	30	0	27	0	27	0	
(30)	(0)	(30)	(0)	[Δ 3]	[0]	[Δ 3]	[0]	

- (注) ・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[] 内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	小林 史子	本人の家庭的な都合による退職のため
2	教授	栗原 裕	定年による退職のため
3	教授	葛西 康德	本人の都合による退職のため
4	教授	平井 一弘	定年による退職のため

(注)・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1・3大学の所見：本人の私的な都合でありやむを得ない理由と考える
2・4大学の所見：定年による退職というやむを得ない理由と考える
学生への周知方法：4月ガイダンス時に大学院要覧を配付し、変更の旨を連絡

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人間文化研究科 現代社会研究専攻（修士課程）>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	副学長 (研究科長)	伊藤 朋恭 (71)	平成22年4月							
専	教授 (専攻主任)	前納 弘武 (65)	平成22年4月	社会情報研究基礎論 情報と職業特論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	小谷 敏 (53)	平成22年4月	メディア研究基礎論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	森 義信 (66)	平成22年4月	社会情報の歴史 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	松浦 康彦 (68)	平成22年4月	新聞特論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	三浦 元博 (60)	平成22年4月	マスコミ言語特論						
専	教授	干川 剛史 (49)	平成22年4月	情報社会及び情報倫理特論 地域再生システム論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	藤吉 洋一郎 (68)	平成22年4月	災害情報特論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	中野 一新 (69)	平成22年4月	世界経済情報特論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	田代 洋一 (66)	平成22年4月	日本経済情報特論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	炭谷 晃男 (57)	平成22年4月	コミュニケーション研究基礎論						
専	教授	東明 佐久良 (65)	平成22年4月	情報システム特論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	浪平 博人 (68)	平成22年4月	ソフトウェア特論						
専	教授	田丸 直幸 (62)	平成22年4月	情報ネットワーク特論演習						

専	教授	小野 茂 (53)	平成22年4月	情報処理特論						
専	教授	堤 江美子 (56)	平成22年4月	コンピュータグラフィックス特論演習						
専	教授	本郷 健 (57)	平成22年4月	情報教育教材開発特論演習						
専	教授	荒井 芳廣 (62)	平成22年4月	ターミナルケア論※ 宗教と社会特論 地域文化論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	大出 春江 (58)	平成22年4月	ライフケア特論 生と死の臨床特別実習(インターシップ)※ 質的調査法 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	是枝 祥子 (68)	平成22年4月	ケアマネジメント論※ 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	金澤 章 (54)	平成22年4月	ジェンダーと医療※ 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究						
専	教授	鄭 暎恵 (49)	平成22年4月	性暴力に関する調査と方法 ジェンダーと臨床特別実習(インターシップ) アイデンティティ論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	専	教授	鄭 暎恵 (49)	平成22年4月	ジェンダーの社会学 性暴力に関する調査と方法 ジェンダーと臨床特別実習(インターシップ) アイデンティティ論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	平成23年4月担当科目の変更(23)
専	教授	浅井 澄子 (51)	平成22年4月	放送・通信特論						
専	准教授	佐藤 富士子 (58)	平成22年4月	ターミナルケア論※ 生と死の臨床特別演習(インターシップ)※ ジェンダーと医療※ 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	専	教授	佐藤 富士子 (58)	平成22年4月	ターミナルケア論※ 生と死の臨床特別演習(インターシップ)※ ジェンダーと医療※ 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	平成22年4月1日付昇格による職名変更
専	准教授	丹野 眞紀子 (47)	平成22年4月	医療福祉特論 社会福祉援助論(女性と自立支援) 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	専	教授	丹野 眞紀子 (48)	平成22年4月	医療福祉特論 社会福祉援助論(女性と自立支援) 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	平成23年4月1日付昇格による職名変更
専	准教授	金城 光 (46)	平成22年4月	学習科学特論						
専	准教授	久保田 滋 (43)	平成22年4月	社会運動論 多変量解析 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	専	教授	久保田 滋 (43)	平成22年4月	社会運動論 多変量解析 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	平成22年4月1日付昇格による職名変更

専	准教授	伊藤 美登里 (44)	平成22年4月	現代社会理論研究 リスク社会論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	専	教授	伊藤 美登里 (45)	平成22年4月	現代社会理論研究 リスク社会論 現代社会研究特別演習 現代社会研究特別研究	平成23年4月1日付昇格による職名変更
専	講師	石田 光規 (36)	平成22年4月	調査研究方法※ ネットワーク論	専	准教授	石田 光規 (37)	平成22年4月	調査研究方法 ネットワーク論	平成23年4月1日付昇格による職名変更 担当科目オムニバスを変更
兼任	教授	服部 孝彦 (57)	平成22年4月	Developing Critical Thinking Skills Critical Reading and Writing						
兼任	教授	生田 茂 (61)	平成22年4月	マルチメディア 特論演習						
兼任	講師	服部 万里子 (63)	平成22年4月	ケアマネジメント論※						
兼任	講師	若林 一美 (60)	平成22年4月	死と死別の臨床心理	兼任	講師	若林 一美 (60)	平成22年4月	死と死別の臨床心理	平成23年3月やむを得ない事情により退職(23)
					兼任	講師	山崎 浩司 (40)	平成23年4月	死と死別の臨床心理	平成23年4月大学院修士課程担当の変更(23)
兼任	講師	宮地 尚子 (48)	平成22年4月	ジェンダーとメンタルヘルス						
兼任	講師	戒能 民江 (65)	平成22年4月	ジェンダーと法律学						
兼任	講師	松本 康 (55)	平成22年4月	調査研究方法※	兼任	講師	松本 康 (55)	平成22年4月	調査研究方法※	平成23年3月やむを得ない事情により退職(23)
兼任	講師	江原 由美子 (57)	平成22年4月	ジェンダーの社会学	兼任	講師	江原 由美子 (57)	平成22年4月	ジェンダーの社会学	平成23年3月やむを得ない事情により退職(23)
兼任	講師	小倉 康嗣 (41)	平成22年4月	老いと死の社会学						
兼任	講師	西嶋 公子 (64)	平成22年4月	ターミナルケア論※						

(注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

- なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程))の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・年齢は、「届出時の計画」には開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)を、「変更状況」には平成23年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
18	0	18	0	18	0	18	0	
(18)	(0)	(18)	(0)	[0]	[0]	[0]	[0]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1			
2			
3			

(注)・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人間文化研究科 臨床心理学専攻（修士課程）>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	副学長(研究科長)	伊藤 朋恭(71)	平成22年4月							
専	教授(専攻主任)	西河 正行(59)	平成22年4月	臨床心理面接特論B 臨床心理査定演習A 臨床心理査定演習B 臨床心理基礎実習 臨床心理特別実習 臨床心理学特別研究 コミュニティ・アプローチ特論演習 集中	専	教授(専攻主任)	西河 正行(59)	平成22年4月	臨床心理学特論 臨床心理査定演習A 臨床心理査定演習B 臨床心理特別実習※ 臨床心理学特別研究 コミュニティ・アプローチ特論演習 集中	平成23年4月担当科目の変更(23) オムニバスに変更(23)
専	教授	深津 千賀子(69)	平成22年4月	臨床心理学特論 臨床心理査定演習A 臨床心理査定演習B 臨床心理実習 臨床心理学特別実習 臨床心理学特別研究 臨床心理学研究法特論Ⅲ(投映法応用) 集中	専	教授	深津 千賀子(69)	平成22年4月	臨床心理学特論 臨床心理査定演習A 臨床心理査定演習B 臨床心理実習 臨床心理学特別実習 臨床心理学特別研究 臨床心理学研究法特論Ⅲ(投映法応用) 集中	平成23年3月定年により退職
					兼任	講師	深津 千賀子(70)	平成23年4月	臨床心理実習 臨床心理学特別実習※	平成23年4月から兼任講師として就任(23) 平成23年4月担当科目の変更(23) オムニバスに変更(23)
					専	助教	香月 菜々子(36)	平成23年4月	臨床心理実習 臨床心理学特別実習 臨床心理学研究法特論Ⅱ(投映法基礎)	平成23年4月大学院修士課程担当の変更(23)
専	教授	加藤 美智子(56)	平成22年4月	臨床心理面接特論A 臨床心理基礎実習 臨床心理特別実習 臨床心理学特別研究 コミュニティ・アプローチ特論演習 集中	専	教授	加藤 美智子(56)	平成22年4月	臨床心理面接特論A 臨床心理面接特論B 臨床心理実習 臨床心理特別実習 臨床心理学特別研究 コミュニティ・アプローチ特論演習 集中	平成23年4月担当科目の変更(23)
専	教授	向井 敦子(64)	平成22年4月	臨床心理学特別研究 発達心理学特論 障害児心理学演習						
専	准教授	泊 真児(37)	平成22年4月	心理統計学特論隔年 臨床認知心理学特論	専	准教授	泊 真児(37)	平成22年4月	心理統計学特論隔年 臨床認知心理学特論	平成23年3月やむを得ない事情により退職(23)
					専	助教	八城 薫(36)	平成23年4月	心理統計学特論隔年 臨床認知心理学特論	平成23年4月大学院修士課程担当の変更(23)
専	准教授	田中 優(44)	平成22年4月	社会心理学特論隔年 社会心理学演習隔年	専	教授	田中 優(45)	平成22年4月	社会心理学特論隔年 社会心理学演習隔年	平成23年4月1日付昇格による職名変更

専	准教授	福島 哲夫 (50)	平成22年4月	臨床心理査定演習A 臨床心理査定演習B 臨床心理実習 臨床心理特別実習 臨床心理学特別研究 心理療法特論Ⅱ (分析心理学)	専	教授	福島 哲夫 (50)	平成22年4月	臨床心理査定演習A 臨床心理査定演習B 臨床心理実習 臨床心理特別実習 臨床心理学特別研究 心理療法特論Ⅱ (分析心理学) 臨床心理基礎実習	平成22年4月1日付昇格による職名変更 平成23年4月担当科目の変更(23)
専	助教	古田 雅明 (40)	平成22年4月	臨床心理実習 臨床心理特別実習						
兼任	教授	服部 孝彦 (57)	平成22年4月	Developing Critical Thinking Skills Critical Reading and Writing						
兼任	講師	坂本 真士 (43)	平成22年4月	臨床心理学研究法特論Ⅰ(実証的研究法)						
兼任	講師	渡辺 俊之 (50)	平成22年4月	事例研究法特論集中 精神医学特論						
兼任	講師	石田 多枝子 (60)	平成22年4月	臨床心理実習	兼任	講師	石田 多枝子 (60)	平成22年4月	臨床心理実習 学校臨床心理学特論 隔年	平成23年4月担当科目の変更(23)
兼任	講師	内田 良一 (45)	平成22年4月	臨床心理実習						
兼任	講師	伊藤 幸江 (58)	平成22年4月	臨床心理特別実習 臨床心理学研究法特論Ⅱ(投映法基礎)	兼任	講師	伊藤 幸江 (58)	平成22年4月	臨床心理特別実習 臨床心理学研究法特論Ⅲ(投映法応用)	平成23年4月担当科目の変更(23)
兼任	講師	福田 由利 (49)	平成22年4月	臨床心理特別実習						
兼任	講師	中釜 洋子 (52)	平成22年4月	家族支援アプローチ演習 隔年・集中						
兼任	講師	松本 美江子 (38)	平成22年4月	心理療法特論Ⅰ(認知行動療法) 隔年						
兼任	講師	福田 憲明 (50)	平成22年4月	学校臨床心理学特論 隔年	兼任	講師	福田 憲明 (50)	平成22年4月	学校臨床心理学特論 隔年	平成23年3月やむを得ない事情により退職(23)

- (注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程))の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・年齢は、「**届出時の計画**」には**開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)**を、「**変更状況**」には**平成23年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
 ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
5	0	5	0	4	0	4	0	
(5)	(0)	(5)	(0)	[Δ 1]	[0]	[Δ 1]	[0]	

- (注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ 1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	深津 千賀子	定年による退職のため
2	准教授	泊 真児	本人の都合による退職のため
3			

(注)・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1大学の所見：定年による退職というやむを得ない理由と考える
2大学の所見：本人の私的な都合でありやむを得ない理由と考える
学生への周知方法：4月ガイダンス時に大学院要覧を配付し、変更の旨を連絡

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (22年1月)	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (23年2月)	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<人間文化研究科>

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
① 大学院生自習室 千代田校地 大学校舎 7階721室(23.50㎡): 人間生活科学専攻(修士・博士後期)	① 大学院生自習室 千代田校地 大学校舎 6階617室(23.50㎡): 人間生活科学専攻(修士・博士後期) 移動のため

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD活動を取り扱うものとしては、大学院を含む大学全体として大妻女子大学FD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会を、研究科として人間文化研究科FD委員会をそれぞれ設置している。また、教員の長期間の国内外研修制度を取り扱うものとしては国内・国外研修員選考委員会を設置している。(委員会規程は別添)</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>大妻女子大学FD委員会</p> <p>昨年度は平成22年5月7日、10月1日の計2回、いずれの回も委員の3分の2以上の出席をもって開催した。(第3回委員会を平成23年3月15日に開催予定であったが、東日本大震災の影響により中止となった。)</p> <p>今年度も少なくとも昨年度と同時期に計3回開催する予定であり、第1回委員会を平成23年5月12日に開催することになっている。</p> <p>人間文化研究科FD委員会</p> <p>昨年度は平成22年5月27日、6月24日、11月25日、平成23年1月27日、3月10日の計5回、いずれの回も委員の3分の2以上の出席をもって開催した。</p> <p>今年度は少なくとも計3回開催する予定であり、第1回委員会を5、6月中に開催することになっている。</p> <p>国内・国外研修員選考委員会</p> <p>昨年度は平成22年6月8日に、委員全員の出席をもって開催した。</p> <p>今年度は平成23年6月7日に開催することになっている。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>大妻女子大学FD委員会</p> <p>FDの企画及び実施に関する事項(FD講演会、全学FD活動報告書など)</p>
--

FDに関する情報の収集及び提供に関する事項
FDの実施に係わる支援及び評価に関する事項
研究科、各学部、短期大学部におけるFD活動に関する事項（学生による授業評価アンケートなど）
人間文化研究科FD委員会
研究科内における上記事項
国内・国外研修員選考委員会
国内・国外研修員の選考

② 実施状況

a 実施内容

FD講演会
学生による授業評価アンケート
授業公開
父母・教員懇談会
授業担当者懇談会
学生による入学時、卒業時アンケート
コンサルタントによる授業改善研修会
大学院進学意識に関するアンケート
大学院の研究・教育に関する意見の収集
教員の国内・国外研修 など

b 実施方法

大妻女子大学FD委員会委員等が中心となり、必要に応じ事務方である教育支援グループと連携して、各学部の特色を生かして各企画を実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

FD講演会については、前期1回、後期1回開催し、それぞれ65名、57名が参加した。
学生による授業評価アンケートについては、前期、後期に専任教員全員が、非常勤講師は科目を指定して実施した。
授業公開は年間を通じて適宜行った。
父母・教員懇談会については、前期に開催した。
授業担当者懇談会については、前期に開催し、約半数の専任教員が参加した。
学生による入学時、卒業時アンケートについては、それぞれの時期に実施した。
コンサルタントによる授業改善研修会については、後期に1回開催した。
大学院進学意識に関するアンケート、大学院の研究・教育に関する意見の収集については、平成22年度入学生を対象に、前期に実施した。
教員の国内・国外研修については、2名が1年間の国外研修を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

アンケート実施結果や各種懇談会での意見等を踏まえ、授業改善への提言を行い、実際の授業に活かしている。研究科の授業改善については、現在検証中であり、特に修士課程については、完成年次終了後の平成24年度のカリキュラムに反映させたいと考えている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

3年前に大学院の方向性について「ミッションと経営指針」の中に掲げ、設置の趣旨にもあるように全学横断的な研究科に改組したことは本学における自己点検によるものである。

また、平成22年3月に本学（大学院を含む）における「中期計画進行状況一覧」の中でも一定の評価を行っている。

なお、これらについては、引き続き、本研究科の審議・決定機関である人間文化研究科委員会や、大学の自己点検・評価委員会で検証していく予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

平成19年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価を受け、大学評価基準を満たしていることが認定された。

今回は平成26年度に大学機関別認証評価を受けるべく、現在計画中である。

(注)・届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (23年 6月 1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/university/shinsei.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。